

3

次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。

ウ

の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましよう。

ア

・

イ

・

「読まなくても、見るだけでいい」

おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおりました。そして、

「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」

と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。

ア

はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして

イ

にあやまるか、さも

なければまっ赤になって、こんなふうと言って

ウ

をしかる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおし

なさい！」

でも、母さんはそこにはいなかった。

(斉藤洋『たったひとりの伝説』による。)